

科目名 基礎看護学概論 I		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 臼木 万喜子	
年次・開講時期		時間数	授業の種類
1年次・前期		30時間/1単位	講義・グループ学習
授業の概要と達成目標 <概要> 我が国の保健医療福祉の分野は、時代とともに大きく変化しており、保健医療サービスへのニーズも多岐にわたる。看護師には、療養生活支援の専門家として専門的知識・技術・態度が求められている。講義では、看護とは何か、看護の対象である人間理解、健康の概念について学ぶ。またこれからの看護実践に重要となる、看護職の法的根拠、継続教育とキャリアデザイン、看護基礎教育のありかた、看護倫理、医療安全、継続看護について学ぶ。 <達成目標> 1. 看護の概念を理解する。 2. 看護の目的、役割と機能を理解する。 3. 看護の対象である人間を理解する。 4. 健康と看護について理解する。 5. 看護職の法的根拠、継続教育とキャリアデザイン、看護基礎教育のありかた、看護倫理、医療安全、継続看護について理解する。			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～30	臼木	ガイダンス；看護概論を学ぶ目的 看護の変遷 1. 看護の起源から職業としての確立 2. 日本の看護の歩み 3. ひろがる看護、これからの看護 看護の本質 1. 保健師助産師看護師法 2. ナイチンゲール：看護覚書 3. ヘンダーソン：看護の基本となるもの 看護の機能と役割 1. 看護ケアとは 2. 看護の質保証に欠かせない要件 看護の対象の理解 健康と生活 1. 健康とは 2. 障害とは レポート；今自分が考える看護とは 3. 国民のライフサイクルと健康生活 4. ヘルスプロモーションとプライマリケア 看護職の法的根拠 看護師のキャリアデザイン 看護基礎教育の在り方（求められる能力） 看護倫理 医療安全 継続看護 まとめ 筆記試験	講義 VTR 講義 講義 レポート 講義 試験
<評価方法> 筆記試験 70% レポート 30%		<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学1：医学書院	
<関連科目> 基礎看護学 各看護学		<参考文献> キラリ看護、看護の基本となるもの 他 講義の中で紹介	

科目名 基礎看護学概論Ⅱ 看護と研究		担当者 がん看護専門看護師 三島 幸恵	
年次・開講時期		時間数/単位数	授業の種類
2年次・後期		15時間/1単位	講義
授業の概要と達成目標			
<p><概要></p> <p>看護研究とは、看護ケアに関する現象を扱うものであり、看護における研究とは看護という職業に関するもの、すなわち看護教育や看護管理についての研究のことである。したがって、看護の研究はさまざまな分野の人々が協力・連携して研究をする必要がある。そのために、看護に携わる者には看護研究について研究する必要がある。</p> <p>この講義では、看護研究とは何か、特徴や看護 研究に必要な基礎的な知識を学ぶ。</p> <p><達成目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における研究の役割を理解する。 2. 研究過程の概観を理解する。 3. 文献検索の方法がわかる。 4. 研究計画書作成の方法がわかる。 			
時間数	担当講師	授業内容	授業方法
15	三島	看護と研究 1) 看護研究とは何か 2) 看護専門職と看護観について 3) 看護研究における倫理的配慮について 4) 看護研究の種類と特徴 5) 看護研究課題（テーマ）について 6) 演習「看護研究課題（テーマ）の明確化」 7) 文献検索について 8) 論文抄録について 9) 論文の種類と特徴 10) 看護研究におけるクリティーク 11) 論文抄録の実際（文献収集） 12) 研究計画書について 13) 調査方法について 14) 演習「文献抄読会」 15) 学会発見の仕方 まとめ 研究計画書の提出	講義 講義 講義 講義 講義 演習 講義 提出課題
<評価> 提出物100%		<使用テキスト> 看護における研究 南裕子編集 日本看護協会 ：日本看護協会出版会	
<関連科目> 各看護学		<参考文献> 講義で提示	

科目名 基礎看護学概論Ⅲ 研究の実際		担当者 専任教員(看護師経験5年以上) 小野 久美子	
年次・開講時期		時間数/単位数	授業の種類
3年次・前期		15時間/1単位	講義・演習・発表
授業の概要と達成目標			
<p><概要> ケーススタディは看護研究のひとつで「事例研究」とも言われる。 ケーススタディは、自分が行った看護をケースとしてテーマを決めて、その過程を深く考察して記述し、結果を看護実践につなげていく。</p> <p><達成目標> 1. 自分の看護実践を振り返り、情報を整理し知識を深める過程を通して、問題点や今後の課題を明らかにする。 2. レポートの作成を通して、自己の考え方を筋道立てて表現できる能力をつける。 3. 自己の看護観を確立していく。 4. 分かりやすい発表と充実した意見交換ができ、より良いケアへの示唆を得る機会になる。</p>			
時間数	担当講師	授業内容	授業方法
1～15	小野	研究の実際 1) 科目目標の確認 2) ケーススタディとは 3) ケーススタディのプロセス、研究計画書 4) ケーススタディの書き方、まとめ方 5) 文献検索 (1) 研究計画書、論文作成 6) 文章を書くときのルール (1) テーマの決定、評価の決定 (2) 論文作成 7) テーマの決定 8) 抄録のまとめ方 (1) 論文作成 9) 論文作成 10) レポートの読み方、講評の方法 (1) 抄録の作成 口頭発表 (1) 発表原稿の作成・発表の方法 (2) ケーススタディ発表会 レポート・発表会	講義 個人ワーク 講義 個人ワーク 講義 個人ワーク 個人ワーク 講義 個人ワーク 講義 個人ワーク 発表 全体討議 評価
<評価方法> レポート・発表の評価100%		<使用テキスト> 新版 看護のための分かりやすい ケーススタディの進め方 : 照林社 ーテーマの決め方からレポート作成ー	
<関連科目> 看護学概論 基礎看護学概論Ⅱ 看護研究		<参考文献> 看護における研究 南裕子編集 : 日本看護協会出版会	

科目名 基礎看護学概論Ⅳ 看護と倫理		担当者 がん看護専門看護師 沼田 靖子	
年次・開講時期 3年次・前期		時間数 15時間/1単位	授業の種類 講義・グループワーク
授業の概要と達成目標 <概要> 看護倫理は看護の本質でもある。1年次に学修した看護倫理の基礎を踏まえ、看護職の役割について学ぶ。 また、事例を通し、「情報共有から意思決定（ケアの同意・納得）」までのプロセスを振り返り、対象の苦痛を理解し、自分にできることは何か一方的な思い込み、偏った視点での解決ではなく、対象の立場に立ちより良い看護は何か、チームで対象とともに考える姿勢を学ぶ。 <達成目標> 1. 看護倫理の基礎的知識を学ぶ。 2. 事例検討から、倫理的看護実践について学ぶ。 3. 事例検討を通し、今後の看護実践における自己の課題を立ち上げる。			
時間数	担当講師	授業内容	授業方法
1～14	沼田	看護と倫理 1) 看護倫理についての基礎知識 (1) 倫理とは (2) 倫理と道徳 (3) 倫理と法 (4) 倫理としての看護倫理 2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 (1) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯 (2) 倫理的問題 (3) 看護師の倫理綱領 (4) 倫理原則 3) 倫理問題の取り組み (1) 看護の本質としての看護倫理 (2) ケアリングの倫理 (3) 倫理的問題に取り組む仕組み 4) 意思決定のプロセスを支える看護事例検討 (1) ディベート（がん告知） (2) セデーション導入を検討する終末期がん患者事例検討の発表	講義 GW GW発表 レポート
15		評価	筆記試験
<評価方法> 筆記試験80% 事例検討内容（レポート）20%		<使用テキスト> 系統看護学講座 基礎分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①：医学書院	
<関連科目> 関係法規		<参考文献> ケアの本質、看護実践の倫理、 アクト・オブ・ケアリング、看護倫理学	

科目名 基礎看護学方法論 I コミュニケーション		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 槻田 啓樹	
年次・開講時期		時間数/単位数	授業の種類
1年次・前期		30時間（うち19時間）/1単位	講義・演習・グループワーク
<p>授業の概要と達成目標</p> <p><概要> 看護は、コミュニケーションを通し、看護の対象となる人間との信頼関係を築き、対象の価値観や個別性を尊重した援助が求められる。 看護におけるコミュニケーションは、単なる言葉のやり取りではなく、対象に関心を寄せ、相手の立場に立ち、対象の思いやニーズを捉え、自分が支援できることは何か、手掛かりを探そうと聞く姿勢を表現し、何とか力になりたいことを率直に伝えていくことが基本となる。そこから相互作用が生まれ、患者－看護者関係が確立していく。また、対象の発達段階や健康の状態によっても、コミュニケーションのあり方は違う。 本科目では、援助的人間関係が確立できるための基本と的確に対象の思いやニーズを把握できるための基本を学ぶ。</p> <p><達成目標> 1. コミュニケーションの基礎を理解する。 2. 医療におけるコミュニケーションの目的と基本的な態度を理解する。 3. 演習や体験を通して、効果的なコミュニケーションを理解する。 4. 障害に応じたコミュニケーションの基本を理解する。</p>			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～18	槻田	<p>1. コミュニケーションの基礎</p> <p>1) コミュニケーションの意義</p> <p>2) コミュニケーションの構成要素と成立過程</p> <p>3) コミュニケーションを阻害する因子と対策</p> <p>2. 医療におけるコミュニケーション</p> <p>1) 医療におけるコミュニケーションの目的</p> <p>2) 医療におけるコミュニケーションの基本的な態度</p> <p>3. 効果的なコミュニケーションの実際</p> <p>1) 傾聴の技術</p> <p>2) 情報収集の技術</p> <p>3) 説明の技術</p> <p>4) アサーティブネス</p> <p>5) ティーチング、コーチング</p> <p>6) プロセスレコード</p> <p>4. 障害に応じたコミュニケーションの基本</p> <p>1) コミュニケーション障害がある人の特徴</p> <p>2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能</p> <p>3) コミュニケーション障害がある人への対応</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義 演習 ビデオ視聴</p> <p>講義 グループワーク</p>
19		評価	筆記試験
<評価方法> 筆記試験 100%		<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②：メヂカルフレンド社	
<関連科目> 人間関係論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 精神看護学 看護過程 フィジカルアセスメント 指導技術		<参考文献> 看護技術 講義・演習ノート下巻 医学芸術社 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス 医歯薬出版株式会社	

科目名 基礎看護学方法論Ⅱ 観察・記録・報告		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 槻田 啓樹	
年次・開講時期		時間数/単位数	授業の種類
1年次・前期		30時間（うち10時間）/1単位	講義・グループ学習
授業の概要と達成目標			
<p><概要></p> <p>日常生活の中で、意識的または無意識的に観察を行っている。観察は、単に「見る」ことではなく、感覚受容器（いわゆる五感）を通して事実を見てとること、さらにそれが何を意味しているかを読み取ることである。</p> <p>看護における観察の目的は、対象となる人々の健康上の問題を解決するために行われ、看護の基本となっている。また、看護はチームで行われるため、行った実践を共有するために記録・報告が必須となる。</p> <p>講義では、看護をするうえで欠くことのできない観察技術と、記録・報告技術を学んでいく。</p> <p><達成目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における観察・記録・報告の意義と目的を理解する。 2. 観察するための方法について理解できる。 3. 看護記録の種類・内容や書き方を理解し、記録することができる。 4. 看護における報告の重要性と報告の方法について理解できる。 			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～10	槻田	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察の目的と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般的な観察 2) 科学的分析によって行われる観察 3) 看護における観察の意義 2. 観察技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 観察を成立させる条件 2) 観察の手段、留意事項、実施方法 3. 看護記録とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護記録の法的規定 2) 看護記録の目的と意義 3) 看護記録の構成要素 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基礎情報 (2) 問題リスト (3) 看護計画 (4) 経過記録 (5) 看護サマリー (6) ケアプログラム；クリニカルパス 4. 看護記録の記載基準 <ol style="list-style-type: none"> (1) 記載時の注意点 (2) 事故発生時の記録 5. 看護記録および診療情報の取り扱い 6. 看護学生の医療情報管理 <ol style="list-style-type: none"> 4. 報告とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 報告の種類 2) 留意事項 <p>評価</p>	<p>講義 グループ学習</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>筆記試験</p>
<評価方法> 筆記試験100%		<使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 看護学生のための実習の前に読む本：医学書院	
<関連科目> 解剖生理学 病態治療学 基礎看護学 老年看護学 成人看護学 在宅看護論		<参考文献> 講義内で紹介	

科目名 基礎看護学方法論Ⅱ バイタルサイン		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 柴田 麗佳	
年次・開講時期		時間数/単位数	授業の種類
1年次・前期		30時間（うち20時間）/1単位	講義・演習
授業の概要と達成目標 <概要> ヒトの身体内部では、恒常性を維持しようとするさまざまなメカニズムが機能しているが、身体内部でおきていることを端的に示すのが、バイタルサイン（生命徴候）である。バイタルサインは身体の状態をとらえるのに最も基本的で、かつ最も重要なサインである。 講義では、バイタルサインの観察とアセスメントの方法について理解し、技術を身につけていく。			
<達成目標> 1. バイタルサインの意義を理解する。 2. バイタルサインの観察とアセスメントの方法を理解する。 3. 安全・安楽なバイタルサイン測定の基本技術を習得する。			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～2	柴田	1) バイタルサインとは (1) 生命の徴候を示すサインであるバイタルサインの意義 (2) バイタルサインの構成要素 (3) バイタルサインでわかること (4) バイタルサインの異常とその意味	講義
3～4		2) 体温 (1) 体温調整のしくみ (2) 体温の観察でわかること (3) 体温の測定方法 (4) 異常体温に対する看護	講義・演習
5～6		3) 呼吸 (1) 呼吸の調整のしくみ (2) 呼吸の観察でわかること (3) 呼吸の測定方法と実際 (4) 経皮的動脈血酸素飽和度 (5) 酸素療法（酸素吸入、酸素ボンベ）	講義・演習
7～8		4) 脈拍 (1) 脈拍の観察でわかること (2) 脈拍の測定部位と測定方法 (3) 脈拍の測定方法の実際	講義・演習
9～10		5) 血圧 (1) 血圧に影響を与える因子 (2) 血圧の観察でわかること (3) 血圧の測定方法 (4) 血圧の測定方法の実際	講義・演習
11～12		6) 意識レベルの観察 (1) 意識障害の観察の重要性 (2) 意識障害判断の客観的な指標 ① ジャパン・コーマ・スケール ② グラスゴー・コーマ・スケール	講義
13～20		7) 技術演習・事例検討 8) 看護技術チェック 評価	演習 技術試験 筆記試験
<評価方法> 筆記試験50% 技術試験50%		<使用テキスト> 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学②：メヂカルフレンド社 看護がみえるvol.3フィジカルアセスメント：MEDIC MEDIA	
<関連科目> 解剖生理学 フィジカルアセスメント 基礎看護学 成人看護学 老年看護学 臨床外科看護総論		<参考文献> 講義内で紹介	

科目名 基礎看護学方法論Ⅲ 環境調整		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 濱木 佳代子	
年次・開講時期		時間数/単位数	授業の種類
1年次・前期		30時間（うち15時間）/1単位	講義・演習・グループ学習
授業の概要と達成目標			
<p><概要></p> <p>患者を取り巻く外部環境を、安全で快適な状態に整えておくことは、すべての看護実践の基本となる。日常生活の場である病床から危険因子を排除し、病床環境を整えることは、回復のための自然治癒力を向上させる。自分の力で環境を適切に調整できない対象に対して、安全で安楽な環境を適切に整える技術を学習する。</p> <p><達成目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 望ましい生活環境について理解できる。 2. 安全で快適な病床環境に調整する知識・技術を習得できる。 3. 環境調整、ベッドメイキング、リネン交換が実施できる。 4. 看護援助における環境のアセスメントの視点がわかる。 			
時間数	担当講師	授業内容	授業方法
1～15	濱木	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と環境のとらえ方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内部環境と外部環境について 2. 病人の環境について <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院による生活の変化と環境条件について 3. 病床環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 望ましい環境と寝具に求められる条件について 4. 環境調整の視点 5. ヘンダーソンの基本的看護と環境調整 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的欲求の充足と援助について 6. 病床の整備、ベッドメイキングの方法 7. ベッドメイキングの実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) クローズドベッド 2) オープンベッド 8. 就床患者のシーツ交換 <ol style="list-style-type: none"> 1) リネン交換 9. 病床の整備 <p>評価</p>	<p>講義 グループ学習</p> <p>↓</p> <p>演習</p> <p>講義・演習</p> <p>講義・演習</p> <p>筆記試験 技術試験</p>
<評価方法>		<使用テキスト>	
筆記試験 50% 技術試験 50%		新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社	
<関連科目>		<参考文献>	
解剖生理学 基礎看護学 老年看護学 在宅看護論		講義内で紹介	

科目名 基礎看護学方法論Ⅲ 活動・休息・姿勢・体位		担当者 専任教員(看護師経験5年以上) 濱木 佳代子	
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
1年次・前期	30時間(うち15時間)/1単位	講義・演習・グループ学習	
授業の概要と達成目標			
<概要> 日常生活における活動と休息の意義、身体の仕組みを理解したうえで、活動制限されることによる身体的・精神的・社会的影響を学習し、活動制限のある患者に対する援助方法を学ぶ。また休息と睡眠に関する援助方法を修得する。			
<達成目標> 1. 日常生活における活動の意義、活動制限が及ぼす身体的・精神的・社会的影響を理解する。 2. 活動が及ぼす各器官の生理的変化、活動の必要性、活動の援助に必要なアセスメントの視点方法を理解する。 3. 姿勢・体位の保持、体位変換、移動・移乗の援助技術を修得する。 4. 日常生活における休息・睡眠の意義、睡眠のメカニズム、睡眠を妨げる要因を理解する。 5. 睡眠がもたらす身体的変化、休息・睡眠への援助方法を理解する。			
時間数	担当講師	授業内容	授業方法
1～4	濱木	1. 安全確保の技術 1) 看護における安楽の意義 2) 安楽な体位の保持 (1) 基本的な体位 (2) 安楽に体位を保持する方法 3) ボディメカニクスの基本 4) 様々な安全確保の技術	講義
5～12		2. 活動・休息の援助技術 1) 活動と休息の意義 2) 活動のアセスメント (1) 廃用症候群とそのリスクアセスメント (2) 廃用症候群予防の概念 (3) 運動機能のアセスメント (4) 運動機能の維持・回復のための援助 3) 運動機能の低下した人の援助 (1) 体位変換、ポジショニング (2) ストレッチャーでの移送の援助 (3) 車椅子による移動の援助 (4) 座位保持・起立動作の援助 (5) 歩行の援助	講義・演習 グループ学習
13・14		4) 安静保持の援助 5) 睡眠の援助	講義
15		評価	筆記試験 技術試験
<評価方法> 筆記試験 50% 技術試験 50%		<使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ : メヂカルフレンド社	
<関連科目> 解剖生理学 基礎看護学 老年看護学 在宅看護論		<参考文献> 講義内で紹介	

科目名 基礎看護学方法論Ⅳ 清潔・衣生活		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 今井 利恵子	
年次・開講時期		時間数/単位数	授業の種類
1年次・前・後期		30時間/1単位	講義・演習・ビデオ視聴
<p>授業の概要と達成目標</p> <p><概要> 自分の身体や身につけるものを清潔に保つ、自分の好きな衣服や装飾品を身につけ、自分らしく独自のやり方で身だしなみを整えることは人間のニーズである。皮膚・粘膜を正常に保ち、清潔で自分らしさを表現できることは、身体を守り、アイデンティティーや社会的役割に関与することである。</p> <p>本科目では、身体的、心理的社会的な意義を捉え、対象がいかなる状態でも可能な範囲で自分なりの衣生活を楽しみ、快適で自分らしい清潔・整容行動がとれるような援助の方法を学ぶ。</p> <p><達成目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚粘膜などの生理的メカニズムを理解する。 2. 対象者が健康な生活を送ることができるように、障害・疾病に応じた清潔の援助方法を理解できる。 3. 人間生活の基盤である衣生活と関連させて、対象に合った衣生活の援助の方法を理解する。 4. 基本的な清潔の援助（清拭）と寝衣交換ができる。 			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～15	今井	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔の意義 2. アセスメントのポイント 3. 基礎知識 4. 清潔を保つ方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手浴・足浴 2) 入浴 3) 寝衣交換 4) 全身清拭 5) 洗髪 6) 口腔ケア、整容 7) 陰部洗浄 5. 技術チェック；全身清拭・寝衣交換 <p>評価</p>	<p>講義</p> <p>調べ学習 DVD視聴</p> <p>DVD視聴 実験 ディスカッション 演習</p> <p>技術試験</p> <p>筆記試験 技術試験</p>
<p><評価方法></p> <p>筆記試験 50%</p> <p>技術試験 50%</p>		<p><使用テキスト></p> <p>新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社</p>	
<p><関連科目></p> <p>成人看護学 老年看護学 小児看護学 在宅看護論</p>		<p><参考文献></p> <p>考える看護技術Ⅰ看護技術の基本 ：ヌーベルヒロカワ 看護が見える1基礎看護技術 ：メディックメディア</p>	

科目名 基礎看護学方法論Ⅴ 食事		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 神部 由利子			
年次・開講時期		時間数/単位数		授業の種類	
1年次・前期		30時間（うち15時間）/1単位		講義・演習・グループワーク	
授業の概要と達成目標					
<p><概要> 何らかの要因によって、自力で食事をとることに支障を生じている人たちへの食事援助技術について学ぶ。経口摂取可能または経口可能となりうる人たちの食事動作や、意欲を援助する食事介助技術と、経口摂取だけでは必要栄養量の摂取維持が難しい人たちに対する援助技術を学ぶ。また、食事介助を通じて食事の意義を深く考え、それに配慮できる能力を養う。</p> <p><達成目標> 1. 健康生活における食事の意義を理解する。 2. 消化・吸収のメカニズムについて理解する。 3. 食事を摂取する機能の障害が、対象に及ぼす影響を理解する。 4. 食生活の援助に関する基礎知識について理解する。 5. 食生活における看護の役割を理解する。</p>					
時間数	担当講師	授業内容			授業方法
1～2	神部	1. 食事・栄養摂取の意義としくみ 1) 人間にとって「食べること」の意味 (1) 食事の意義 2) 食事・栄養摂取のしくみと働き (1) 食欲 (2) 咀嚼・嚥下（誤嚥） (3) 消化吸収のしくみ ①消化経路と消化器官の働き			講義
3～4		2. 食事・栄養摂取のアセスメント 1) 栄養状態と食生活のアセスメント (1) 栄養アセスメント (2) 咀嚼・嚥下のアセスメント (3) 食生活に関連するアセスメント (4) セルフケア行動（摂食動作）のアセスメント (5) 食事を妨げる要因のアセスメント			講義
5～6		3. 患者への食事の援助 1) 医療施設で提供される食事 (1) 食事の種類 (2) 食事の形態 2) 経口摂取できる患者の食事介助 (1) 食事介助の目的と根拠 (2) アセスメントのポイント (3) 食事介助の方法 ・視覚障害、運動障害のある患者への食事介助			講義 GW
7～10		4. 食事介助の実際 1) 視覚障害のある患者の食事介助 2) 運動障害のある患者の食事介助 5) 食欲不振、視覚障害のある障害患者への食事援助の基本			講義 GW
11～12		5. 演習を通して振り返る 6. 経腸栄養の種類とその特性 1) チューブ挿入の経路 2) 経腸栄養剤の種類 3) 経腸栄養の援助目的とその方法			講義
13～14		7. 中心静脈栄養、抹消静脈栄養を行う患者の援助 1) 目的と根拠 2) 援助の方法			講義
15		試験			筆記試験
<評価方法> 筆記試験100%			<使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ：メヂカルフレンド社		
<関連科目> 看護学概論 看護形態機能学 成人看護学（脳・神経、消化器） 医療安全			<参考文献> 看護形態機能学/日本看護協会出版会 看護技術 講義・演習ノート/医学芸術社		

科目名 基礎看護学方法論Ⅴ 排泄		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 片山 佳織	
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
1年次・前期	30時間（うち15時間）/1単位	講義・デモンストレーション・演習	
授業の概要と達成目標 <概要> 排泄行動は生命維持に不可欠であると同時に、誰もが営む日常的な行為である。排泄行動や排泄物の性状は、健康状態を把握するための指標ともなる。健康であれば、排泄とは人に見られることなく、自分自身で行う行為である。排泄の援助を行う場合は、プライバシーに配慮しながら安全・安楽に行っていく必要がある。 講義では、排泄の意義とメカニズムを理解し、観察技術や安全・安楽な援助を学んでいく。 <達成目標> 1. 健康生活における排泄の意義を理解する。 2. 排泄のメカニズムを理解する。 3. 排尿・排便の援助方法を理解し、実践できる。 4. 演習を通して、援助を受ける患者の気持ちを理解して実践できる。			
回数	担当講師	授業内容	授業方法
1～2	片山	1) 排便・排尿の意義としくみ (1) 生理的意義と援助の基本 (2) 排泄のしくみ 2) 排泄のアセスメント	講義
3～6		3) 排泄の援助の基礎知識と援助方法 (1) トイレを使用した排泄の援助 (2) ポータブルトイレを使用した排泄の援助 (3) 差し込み便器を使用したベッド上での排便の援助 (4) 尿器を使用したベッド上での排尿の援助 (5) オムツ交換	講義 デモンストレーション 技術演習
7～8		4) 排便障害のある患者の援助 (1) 便秘 (2) 下痢 (3) 便失禁	講義
9～10		5) 排尿障害のある患者の援助 (1) 頻尿と尿失禁 (2) 排尿困難と尿閉	講義
11～12		6) 排泄に関する処置 (1) 浣腸 (2) 摘便 (3) 一時的導尿 (4) 持続的導尿（留置カテーテル法）	講義
13～14		7) その他の排泄に関わる援助技術 (1) 膀胱洗浄 (2) 一時的吸引（鼻腔・口腔からの吸引） (3) 胸腔ドレナージ	講義 演習
15		評価	筆記試験
<評価方法> 筆記試験50% 技術試験50%		<使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎	
<関連科目> 基礎看護学Ⅰ・Ⅱ 成人看護学 老年看護学 在宅看護論		<参考文献> 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 看護技術 講義・演習ノート 上巻 ：サイオ出版 写真で見る基礎看護技術：照林社	

科目名 基礎看護学方法論Ⅵ 検査・治療・処置		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 小野 久美子	
年次・開講時期		時間数/単位数	
1年次・後期		30時間（うち10時間）/1単位	
授業の種類 講義・演習			
授業の概要と達成目標 <概要> 医学の目覚ましい進歩によって検査法が拡大し、診断の確実性が増してきている。これに伴い看護師もそれぞれの検査の目的、方法、手段によって生じるリスクを捉え、より正確な検査結果を得られるように援助しなければならない。患者が安心して、安全安楽に検査を受けられるように、検査における看護師の役割を学ぶ。			
<達成目標> 1. 検査の意義および看護師の役割を理解する。 2. 検査の種類、介助方法および実施時の留意点を理解する。 3. 治療・処置時の留意点と看護師の役割を理解する。			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
2	小野	1. 検査の意義と看護 1) 検査の意義 2) 検査における看護師の役割 2. 検体の採取と取り扱い 1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 4) 血液検査（採血の演習）	講義 演習
4		1. 身体各部の計測 1) 身長・体重測定 2) 頭囲・胸囲・腹囲 3) 握力 4) 肺活量 2. 穿刺の介助 1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 腰椎穿刺 4) 骨髄穿刺	講義
6		1. 検査時の介助 1) X線撮影 2) コンピューター断層撮影（CT） 3) 磁気共鳴画像 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 心電図検査 7) 呼吸機能検査 8) 核医学検査 9) 造影剤を用いる検査に共通するリスクと対応	講義
8		1. 創傷管理の基礎知識	講義
10		1. 体温管理・補助の援助（罨法） 1) 冷罨法 2) 温罨法 2. 洗浄 1) 胃洗浄 2) 膀胱洗浄	講義
		評価	筆記試験
<評価方法> 筆記試験100%		<使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社	
<関連科目> 臨床看護学総論 病態治療学 成人看護学 在宅看護論総論		<参考文献> 看護が見える② 臨床看護技術 :メディック メディア	

科目名 基礎看護学方法論Ⅵ 与薬		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 小野 久美子	
年次・開講時期	時間数	授業の種類	
1年次・後期	30時間（うち20時間）/1単位	講義・演習	
授業の概要と達成目標			
<p><概要> 与薬は、医師の指示に基づいて行われる。しかし、看護師が安全で確実な与薬を実施しなければ、薬剤の効果が期待できないばかりか、対象の生命をも脅かすことになる。原理原則を理解し対象の状況に合わせて適切に応用できなければならない技術であり、正しい知識に基づいて思考する力を習得することが重要になってくる。また、技術が患者の日常生活に及ぼす影響（規制）を具体的にイメージでき、その影響から起こる困難をできるだけ軽減できるような関わりを持つ視点を養う。</p> <p><達成目標> 1. 与薬の意義と重要性を理解する。 2. 与薬の危険性、看護師の役割と法的責任を理解できる。 3. 与薬の方法とその特徴を理解できる。 4. 与薬を安全かつ苦痛を最小限に実施する必要性を理解する。</p>			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～10	小野	1. 与薬における看護師の役割 1) 与薬に必要な基礎知識 2) 与薬の体制と連携 3) 与薬における安全 2. 正しい与薬のための看護師の思考過程 1) 事例から安全に与薬する方法を理解する。 （1）使用する薬剤の作用・副作用 期待される効果を正しく理解する。 （2）5Rの理解	講義
11～20		3. 各種与薬の方法 1) 目的、禁忌、必要物品、実施時の留意点 2) 注射法：①皮内 ②皮下 ③筋肉内 ④静脈内 ⑤点滴静脈内注射 3) 経口与薬法 4) 口腔内与薬法 5) 直腸内与薬法 6) 吸入法 7) 点眼・点鼻・点耳法 8) 経皮、外用薬の塗布・塗擦 4. 中心静脈カテーテル法 5. 輸血	講義 演習
		評価	筆記試験
<評価方法> 筆記試験100%		<使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ：メヂカルフレンド社	
<関連科目> 解剖生理学 薬理学		<参考文献> 看護がみえる② 臨床看護技術 ：メディック メディア	

科目名 基礎看護学方法論Ⅶ 看護過程		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 今井 利恵子	
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
1年次前・後期	30時間/1単位	講義・演習	
授業の概要と達成目標 <概要> 科学的思考・問題解決思考を基盤に看護過程における思考の方法を学習し、対象の個別性・特殊性に合わせた看護を実践するための看護過程のプロセスを学ぶ。 <達成目標> 1. 看護過程の概念と、看護過程を活用する意義を理解できる。 2. 問題解決思考や情報分析の方法といった看護過程の基盤となる考え方について理解ができる。 3. 看護過程の段階とそれぞれの構成要素について理解できる。 4. ヘンダーソンが考える看護の概念と概念枠組み、考えに基づく看護過程を理解できる。 5. 事例での看護過程の展開ができる。			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～8	今井	1. 看護過程とは 1) 看護過程の概念 2) クリティカルシンキング 3) 直感的思考 4) リフレクション 5) 臨床推論と臨床判断 2. 看護過程の構成要素 1) 情報収集とアセスメント 2) アセスメントの統合と関連図 3) 看護計画の立案 4) 実施・評価 *看護過程の思考で自分の生活を考える 3. 看護の基本となるものと看護過程 1) 看護の独自の機能、基本的看護 2) 基本的看護の構成要素、常在条件、病理的状态 3) 基本的看護の構成要素とデータベース	講義 GW 講義 GW
9～30		4. 看護過程の展開(事例展開) 1) 事例の理解 ①事例の看護に必要な学習 ②病態生理の理解と病態関連図 2) アセスメント(データベースを活用、14項目に沿い) ①情報収集と整理 ②病理的状态と常在条件 ③現在の状態 ④原因・誘因(体力・意志力・知識) ⑤充足状態 ⑥看護の方向性、必要な看護 ⑦不足情報 3) 全体関連図 4) 看護計画 ①看護問題の特定 ②優先順位 ③看護目標 ④具体策 5) 実施・評価 評価	講義 個人ワーク GW 講義、GW 講義 GW 講義 提出課題
<評価方法> 提出物 80% 授業姿勢 20%		<使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 看護学生のための実習記録の書き方 ：サイオ出版	
<関連科目> 看護学概論 経過別看護 専門基礎科目Ⅱ		<参考文献> 看護がみえるvol. 4看護過程の展開 メディックメディア 他 講義内で紹介	

科目名 基礎看護学方法論Ⅷ 経過別看護		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 今井 利恵子	
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
1年次・後期	15時間/1単位	講義・演習	
授業の概要と達成目標			
<p><概要> 看護援助を必要としている人々の生活背景、健康のレベル、必要としている援助の内容や優先度など、具体的な援助行為は個別的である。個々の具体的な問題や課題に、適切に対応するためには、人間の健康レベルの変動に伴う様々な変化と生活スタイルの修正について、基盤となる視点をもっていることが求められる。健康レベルの変化を、疾病の経過という視点のみならず、対象者の生活への影響という視点で捉えることが重要である。看護の対象である人間の生の営みをプロセスと捉え、個人の健康レベルが変動する場合における看護の考え方を学ぶ。</p> <p><達成目標> 1. 健康状態の考え方と、経過の基づく患者のニーズと看護の基本を理解する。 2. 各期における看護とその概念・理論を理解する。 3. 治療・処置を受ける患者のニーズと看護の基本について理解する。</p>			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
2	今井	1. 健康障害のレベルとしての経過 1) 健康レベル各期における治療の特徴と概念 2) 健康レベル各期における患者・家族の特徴	講義 GW GW発表
3～6		2. 健康レベル各期の看護に関連する理論 1) 各期の看護実践での活用（アセスメントのポイント） 2) 臨床での活用の実例（事例）	GW
7～13		3. 各健康レベルにおける事例の看護を考える 1) 危機にある患者の行動理解と看護 2) 時期と目的からみたリハビリテーション看護 3) 患者の自己管理（生活改善）やセルフケアを促す看護 4) 健康レベルの変化における看護	GW
14		4. 化学療法と看護 1) 化学療法とは 2) 化学療法を必要とする患者 3) 化学療法が患者に及ぼす影響 4) 化学療法を受ける患者の看護	講義
15		評価	筆記試験
<評価方法> 筆記試験 100%		<使用テキスト> 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論：メヂカルフレンド社	
<関連科目> 看護学概論 成人看護学概論 成人看護学		<参考文献> 臨床看護学 2 経過別看護 第2版 監修 川嶋みどり：メヂカルフレンド社	

科目名 基礎看護学方法論Ⅸ フィジカルアセスメント①		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 浅里 和弘	
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
1年次・後期	30時間（うち15時間）/1単位	講義・演習・グループワーク	
授業の概要と達成目標			
<p><概要> 看護過程の展開をするために、対象の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から総合的に査定を行う必要がある。そのために、具体的な情報収集の方法としてフィジカルアセスメントがある。この方法で収集する情報は、対象の状態を具体的に把握することができる。多面的・多角的に捉える方法としての技術を学ぶ。</p> <p><達成目標> 1. フィジカルアセスメントの基礎的知識がわかる。 2. フィジカルアセスメントの技術が実施できる。</p>			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～2	浅里	1. フィジカルアセスメントとは 1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性 2) フィジカルアセスメントの意義と目的、構成要素	講義
3～4		2. フィジカルイグザミネーション 5つの手技 1) フィジカルアセスメントの基本姿勢と進め方 2) 問診、視診、触診、打診、聴診	
5～6		3. 呼吸器系と循環器系のフィジカルアセスメントの進め方について	講義 DVD
7～8		4. 呼吸器系フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系の解剖、肺の位置 2) 呼吸運動のしくみと主な症状 3) 呼吸器系の問診、視診、触診、打診、聴診	講義 DVD
9～10		5. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系の解剖 2) 循環器系の主な症状 3) 循環器系の問診、上肢・下肢の問診・視診 4) 循環器系症状別のフィジカルアセスメント	技術演習
11～14		6. フィジカルアセスメントの実際 基本技術 1) シュミレーターを用いての呼吸器の聴診 2) 呼吸器系、循環器系の視診、触診、打診	
15		7. フィジカルアセスメントの情報収集、アセスメントについて 事例検討	講義 GW
		評価	筆記試験
<p><評価方法> 筆記試験 80% 講義・演習の参加態度 20%</p>		<p><使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 看護が見えるVol.3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA はじめてのフィジカルアセスメント 看護を学ぶすべてのひとが身につけたいフィジカルイグザミネーションの知識と技術：メヂカルフレンド社 横山美樹</p>	
<p><関連科目> 病態治療学 基礎看護学</p>		<p><参考文献> 講義内で紹介</p>	

科目名 基礎看護学方法論Ⅸ フィジカルアセスメント②		担当者 専任教員（看護師経験5年以上） 浅里 和弘	
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
1年次・後期	30時間（うち15時間）/1単位	講義・演習	
授業の概要と達成目標			
<p><概要> 看護過程の展開をするために、対象の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から総合的に査定を行う必要がある。そのために、具体的な情報収集の方法としてフィジカルアセスメントがある。この方法で収集する情報は、対象の状態を具体的に把握することができる。多面的・多角的に捉える方法としての技術を学ぶ。</p> <p><達成目標> 1. フィジカルアセスメントの基礎的知識がわかる。 2. フィジカルアセスメントの技術が実施できる。</p>			
時間	担当講師	授業内容	授業方法
1～2	浅里	1. 腹部・消化器系のフィジカルアセスメント 1) 腹部・消化器系の解剖、腹部の位置 2) 腹部・消化器系の主な症状 3) 腹部・消化器系の問診、視診、触診、打診、聴診	講義 DVD
3～6		2. 脳・神経系のフィジカルアセスメント 1) 脳・神経系の基本的構造と機能 2) 神経系の問診、視診、触診、打診 3) 感覚系の種類、検査方法 4) 自律神経系について	講義 DVD
7～8		3. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系の基本的構造と機能 2) 腹部・消化器系の問診、視診、触診 3) 自覚症状、関節可動域の観察	講義 DVD
9～10		4. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 1) 自覚症状、視診、触診の方法 5. 心理的・社会的状態のアセスメント	講義
11～14		6. フィジカルイグザミネーションの実施 1) 各部位のグループで体験する。	演習
15		評価	筆記試験
<p><評価方法> 筆記試験80% 講義・演習の参加態度 20%</p>		<p><使用テキスト> 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ：メヂカルフレンド社 看護が見えるVol.3フィジカルアセスメント：MEDIC MEDIA はじめてのフィジカルアセスメント 看護を学ぶすべてのひとが身につけたいフィジカルイグザミネーションの知識と技術：メヂカルフレンド社 横山美樹</p>	
<p><関連科目> 病態治療学 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ</p>		<p><参考文献> 講義内で紹介</p>	